

優秀賞

交通事故を起こさないために

合馬小学校 6年 葛西 凜太郎

「ドカン！」

自転車と車がしょうとつ。自転車のフレームは曲がってしまって、乗っていた人はかなり遠くに放り出されてしまいました。

これは、本当の事故ではありません。ぼくが見た、スタントマンによる実演を使った交通安全教室でのことです。事故のしょうげきはものすごかったです。自転車に乗る時にはヘルメットを絶対に着けなければいけないと思いました。着けないと大けがをしたり死んでしまったりするでしょう。

次に、内輪差のまきこみ事故を見ました。トラックが左折したときに、いっしょに曲がろうとした自転車にぶつかって、自転車はトラックの下にはさまれてしまいました。トラックの運転手がかもしも気付かなかつたら、と思うととてもおそろしかったです。飛び出しなくても事故は起こるのです。道路にいる時は常に周りに気を付けなければいけません。

最後の場面は、見通しの悪い交差点です。走っている自転車と、道から出てきた自動車がぶつかりました。この事故は、自転車の人も自動車の運転手も、どちらも気を付けていなかったから起こったのだと思いました。家に帰って母に話すと、母は

「事故はどちらかが気を付ければ防げることが多いと思うよ。相手が止まってくれるだろう、じゃなくて、相手が止まらないかもしれない、という風に考えてね。」

と言っていました。

事故が起こるしゅん間を間近で見たことがなかったので、とてもこわい安全教室だったけれど、とても大切な経験ができました。事故は一しゅんで起きて、起きてしまったら、大きなけがをしたり、それまでと同じ生活ができなくなってしまうたりします。ぼくは、自分が注意することによって防げる事故は、絶対に防ぎたいです。そのために、自転車に乗る時は集中して、あせらず心によゆうをもって運転することをちかいます。